

# のびゆく 子どもたちのために



茅ヶ崎市長  
服部 信明 氏

## 教育随想



平成16年11月1日

# 11月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
茅ヶ崎市長	服部 信明氏
この人に聞く	2
女性蔵人	杉山 静香氏
羅針盤	2
保健指導員	本若 典子
ふれあい	3
男川小	野村百合子
六ッ美中	堀田 史
特集	4
岡崎のハーモニー	
～その歩みと新たなるスタート～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
全日本音楽教育研究会愛知大会	
(昭和57年)	
この本を	8

岡崎市と茅ヶ崎市は、昭和五十八年に大岡越前守忠相を縁として「ゆかりのまち」の提携をし、今年二十二年目を迎えました。

茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部に位置し、相模湾沿岸のほぼ真ん中にあることから、温暖で首都圏への交通が至便なこともあり、ベッドタウンとして人口も増え続け、二十二万七千人を超す湘南の中核都市となっています。

平成に入って、市への急激な人口流入はようやく落ち着いていますが、いまだ人口は微増を続け、本市の面積は三五・七六平方キロメートルと狭く、人口密度はかなり高い状況にあります。

少子化と言われておりますが、茅ヶ崎市内においては平成十年度と平成十三年度にそれぞれ一校ずつ小学校を新設しました。オープンスペー

スを取り入れた校舎からは、今日も元気な子どもたちの笑い声が聞こえてきます。

子どもは社会の宝、未来への希望です。しかしながら、子どもが健全に育っていくための環境は、今の時代とても厳しいものがあると考えています。

本市では、平成十二年度に学校・家庭・地域で、子ども・教職員・保護者・地域の人々が学び育つ、学びの共同体を实践することを目指す『茅<sup>か</sup>の響きあい教育プラン』を定め、その実践を積極的に進めております。また、全ての市民の協力のもとに子どもの安全を守るまちづくりを進めるため、今年五月三十日に「子どもの安全を守る都市宣言」をいたしました。

未来を担う子どもたちが、のびのびと健やかに育つよう、まちづくり

の最重点課題の一つとして力を注いでいます。

いつの時代においても、また、この場所でも、子どもが安心して過ごせ、それぞれの個性を発揮できるように環境を整えてゆくことが、大人の責務だと思います。

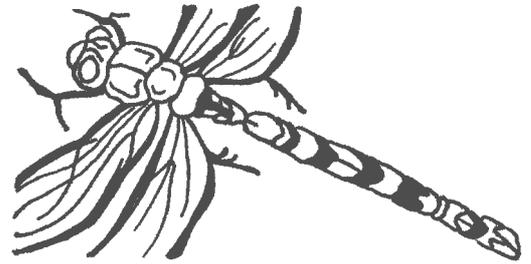
子どもたちが「茅ヶ崎らしさ」を誇りに思い、夢のある未来の担い手となるよう、魅力あふれるまちづくりを進めていきたいと考えております。

(はっとり のぶあき)



# この人に聞く

ふるさとシリーズ



## 杜氏目指して

女性蔵人

杉山 静香 氏

「仕事としては、単純作業を失敗なく繰り返し返すことなんです。酒は生き物です。微妙な条件の変化で違った物になってしまうという繊細な部分があります。見よう見まねで覚えることばかりですが、そういうところが、この仕事の難しさでもあり、おもしろさでもありますね。」

目を輝かせてこう話す杉山さん。額田町保久にある柴田酒造場で、三河地方初の女性蔵人として酒造りに情熱を注いでいる。

杉山さんと日本酒との出会いは、



学生時代。アルバイト先の日本料理屋で初めて日本酒を口にし、その味わい深さを知ったことから、日本酒の魅力にはまっていったという。

「何回か酒蔵見学に行つて、実際に造るところを見たり、蔵人に話を聞いたりするうちに、酒造りがしたいと思うようになりました。」

愛知県内の五十社ほどの酒造場に、自分の思いを綴った葉書を送ったそうだ。しかし、蔵人という仕事は、もともと募集が少なく、かつては女人禁制と言われた職である。快い返事をくれる酒造場はなかなか見つからなかった。

「一度は、蔵人になるのをあきらめ、酒を販売する会社への就職も考えましたが、やっぱり違うなと思つて。それから迷わず、あちこちの酒造場を回りました。そして、ここに出会ったんです。」

柴田酒造場の社長に会つて、自分の思いを熱く語つたという。その熱意が伝わり、採用が決まった。

「今は下積みで、洗米という仕事を担当しています。重い物を持つときには、厳しいなと感じることもありますが、女の子扱いされないところが気に入っています。やめたいと思つたことは一度もないですね。酒造場の人たちからは、職場が明るくなつたと言われます。」

そう笑顔で語る杉山さんからは、蔵人としての誇りと情熱を感じた。

三年目を迎えた最近では、体験学習や講演等で中学生と触れ合う機会も多いという。

「年齢的に近いこともあつてか、真剣に話を聞いてくれます。たくさん可能性がある中学生の子たちには、いろいろなことをあきらめないで、夢を持つてほしいですね。」

蔵人になりたいという夢を叶え、毎日生き生きと働きながら、さらに夢は大きく広がつていく。

「十年先、二十年先になるかわかりませんが、杜氏になりたいです。そしてオリジナルのお酒を造りたいですね。」

氏名 すぎやま しずか  
生年月日 昭和五十四年六月八日  
住所 竜美台二十五十八



## 活動を通して 実践力を養う保健指導

保健指導員 本若 典子

「みんなの好きなおやつベストテン！」

事前に実施した三日間のおやつ調べの結果が、大寫しになった。身を乗り出して自分と同じものがあるか見つめる子供たち。

「みんなのランキングはこの中にあつたかな。」

「あつたあ。」

楽しい雰囲気の中、A小学校の二年生の保健指導『はによいおやつをえらぼう』が始まった。甘くて歯にくっつきやすいおやつが、むし歯の原因になることに注目させ、むし歯になりにくいおやつを、自分で選ぶことができるようにすることをねらつた授業である。

まず、子供たちに「するめ」と「黒いクッキー」が配られた。当然

## 「先生、おかず……」

男川小 野村百合子

給食の時間の出来事である。楽しい給食の音楽を耳に、元氣よく配膳する子供たち。ところがその日はいつもより元氣よく配り過ぎて、おれが一人分足りなくなってしまう。どの子にとっても楽しみな給食の時間。見かねて私のおかずの器を渡した。

「いただきます。」

食べ始めてしばらくすると、私の前に立った子がいる。顔を上げてみると、「先生、おかず……」と、A男が自分のおかずの器を恥ずかしそうに私に差し出していた。

十歳の子供たちにとって、「いただきます」の瞬間には「おいしそうだなあ」とか「これ苦手だから残そう」と、目の前の給食で頭がいっぱ



いとなり、とても人のことなんて考えている暇はない。私の給食がないのに気付き、一生懸命考えた末、「自分のおかずを持っていこう」と、おかずの器を手に席を立ったA男に、なんとも言えない愛しさを感じた。彼は両親の愛情に包まれ、心豊かに育っているんだなと思った。

日々のかかわり合いの中で、出会う純粋な気持ち。そんな子供たちの素直な思いに触れながら毎日を過ごしている。



## 支え合い

六ツ美中 堀田 史

本校の二年生は、九月に職場体験学習を行った。その折に、心温まる出来事があった。

「まだ来ない……」

あるグループの学校への帰着が遅れていた。学校と職場の位置を考えると、とうに着いているはずである。まさか事件や事故に巻き込まれたの



ではと、胸に不安がよぎる。

しばらくして、ひよっこり玄関に四人の生徒が現れた。真っ赤な顔で、額にいっぱい汗をかいて。

「どうした？途中で何かあった？」  
そう聞くと、息を切らせて答えた。  
「Aさんが、風が強くて自転車に乗れないから、みんなと一緒に歩いてきたんです。」

学校は、まだはるか彼方にある。途方に暮れるA子に三人が精一杯の励ましを送った。一人一人が互いに支え合い、A子にしっかりと寄り添って苦難を乗り越えた。周囲からの援助が必要なA子にとって、友達存在は大きかった。

この出来事は、驚くものではなく、当然のことかもしれない。しかし、優しい気持ちを当たり前のように表示わす生徒たちの笑顔と光る汗は、忘れることのできない一場面となった。

するめは歯にくっつかない。次に黒いクッキーを食べた後、お互いに歯を見合った子供たちは、

「キャー、まっくら。」

と大騒ぎ。担任のB先生は子供たちにどこに汚れが付いているか確認させた後、養護教諭のC先生が白衣を着て登場。C先生は発泡スチロールと接着剤で、歯の汚れをそのままにしておくことができるむし歯の様子を、インパクトのある実験で示した。

「うわあ、とける。」

また、子供たちから驚きの声。さすがC先生がおやつ後の歯磨きの必要性を、子供たち自身の言葉でタイミングよく引き出した。C先生は最初から最後まで、机間指導や担任の補助などを行い、TTが見事にかみ合っていた。

その後、子供たちはよく食べるおやつをグループで相談しながら、赤・黄・青のおやつ信号に分けた。そして、クイズを楽しむように目を輝かせて発表をし合う中で、むし歯になりやすい赤が多くて、青がほとんどないことに気付いていった。

教具の工夫と事前の準備、TTの効果的な役割分担により、子供たちの集中力は四十五分間持続し、楽しく活動を進めながら、自分の生活に生かすことのできる授業であった。



▲ 太陽の城で行われた中学生混声合唱の合同練習

「より高く、より豊かに、より美しく」この言葉を合言葉に、昭和四十八年、「岡崎のハーモニー」は誕生した。

第一回のテーマは「世界の民謡」。以降、「四季」「こころ」「ふるさと」と続いた。ステージ内容は、小中学校の合唱部選抜による第一部、全小中学校が四つのブロックに分かれて発表する第二部、吹奏楽の演奏の第三部という三部構成が二十三回まで続いた。その後、岡崎の演奏家シリーズ、教員合唱、ブロック発表のテーマ固定、岡崎ジュニアコーラス、ジュニアシンフォニックバンド、ジュニアシンフォニックオーケストラの参加など様々な工夫が重ねられてきた。

三十二回目を迎える今年、ハーモニーは新たなチャレンジをすることになった。これまでのブロック発表から、演奏形態別のステージとなるのである。

小学校は、「小学生のための合唱曲」「和楽器を取り入れた合唱奏」「オペレッタ」の三グループ。中学校は、「男声によるアカペラ合唱」「女声によるアカペラ 聖歌と雅楽」「新しい合唱曲」「歌い継がれる合唱曲」の四グループである。新しい試みに期待を寄せる声は大きく、夏休みには熱のこもった練習が各グループで展開されていた。

岡崎だけではなく、全国の音楽教師の目標となる音楽会の役割を担ってきたハーモニー。十一月二十三日、岡崎のハーモニーの新たな第一歩が踏み出される。



▲ 30周年のお祝いを述べる柴田紘一岡崎市長（平成15年度）



▲ 昭和48年に産声を上げた岡崎のハーモニー

平成16年度 第32回 テーマ

いま音楽に夢中 ひろがる学びのステージ



▲小学生による合唱の夏休み合同練習



▲熱気あふれる小学生オペレッタ『111匹の猫』の練習

今年度のステージ進行

- 1 ファンファーレ
- 2 オープニング『岡崎讃歌』
- 3 ジュニアシンフォニックバンド演奏
- 4 ジュニアコーラス演奏
- 5 中学生男声によるアカペラ合唱
- 6 小学生のための合唱曲
- 7 中学生女声によるアカペラ 聖歌と雅楽
- 8 中学生による歌い継がれる合唱曲
- 9 小学生によるオペレッタ
- 10 小学生による和楽器を取り入れた合唱奏
- 11 ジュニアシンフォニックオーケストラ演奏
- 12 中学生による新しい合唱曲
- 13 エンディング『翼をください』



▲2学期に入り一段と熱が入る和楽器の練習



▲美しい声を響かせる女声合唱の合同練習



▲迫力ある声が響き渡る男声合唱の合同練習



▲ステージに彩りを加える岡崎ジュニアコーラス(左)・ジュニアシンフォニックオーケストラ(中)・ジュニアシンフォニックバンド(右)



● 教育最新情報

○ 特色ある学校づくり推進事業

岡崎市では、特色ある学校づくりを、

(1) 教育方針、研究主題、校風、創意工夫に基づいた明確な目標を持った質の高い教育活動である。

(2) 保護者や地域に「誇りとされる学校づくり」であり、「信頼される学校づくり」を目指すものである。と、とらえている。

また、教育には不易の部分もあるが、絶えず時代の風を感じて、子供や親に対するニーズに<sup>こた</sup>えるように変革していかなければならない面もあり、常に学校運営改善を求められる。なぜなら、特色は、ややもすると我々教師が気付かないところで硬直化・形式化し、



色あせたものになりかねないからである。

そこで、平成十五年度より、先進的な特色ある学校づくりの取組に対して支援をし、岡崎市内の学校教育の振興を図ることを目的としてこの事業を創設した。

本年度は、小学校十六校、中学校六校、計二十二校から応募があった。この中から、①継続性・発展性②創造性・斬新性③地域との連携、の三つの観点から五校が選出され、実践が進められている。

(1) 美合小学校

「myホテル大作戦」

(2) 竜谷小学校

「『緑に遊び 緑に学ぶ』地域とともに歩む環境学習」

(3) 生平小学校

「ふるさと発見！わが町生平」

(4) 大門小学校

「個に応じた発展的な学習・補充的な学習」

(5) 竜海中学校

「『竜盲交流』を通した、生徒の思いやりの心を育む学校づくり」

今後は、十一月の定例校長会議で中間報告を行い、年度末に各学校へその成果を報告する。

現在、各学校でも積極的に自校の学校づくりのために努力されていることであろう。日々の実践に全力で取り組むと同時に、特色ある学校づくり委員会から各校に送付されている教育活動診断表を十分に活用し、子供や保護者の評価を取り入れた客観的な分析を通して、さらに学校づくりに邁進<sup>まいしん</sup>されることを期待する。



▲ my ホテル大作戦 (美合小)

● ハートピア岡崎だより

当所北側の山間を流れる青木川を上流に少し上っていくと、農業用のため池である赤岩池がある。その先の川は樹林の中の溪流となり京ヶ峰に至る。

ここが六月より通所を始めたA君のお気に入りのポイントである。午後の自由時間になると、天気さえ良ければ必ず愛用の釣竿<sup>つりざお</sup>を持ってでかける。彼は、魚釣りが唯一の楽しみだと言っただけあって、腕はかなりのものである。苦勞の末に、二十センチを越す<sup>こえ</sup>婚姻<sup>こんいん</sup>色<sup>いろ</sup>に輝く見事なオイカワを釣り上げ、そこに居合わせた一同を驚かせた。彼の楽しみが他の友達への良い刺激になったのであろう。この夏は川遊びを希望する通所生が昨年に比べかなり増えた。

チャンスを与え、やってみれば必ず行動するはず。このような思いから、今年は新たな試みをいくつか実施してきた。その主なものは、夏休み中の「学習相談」と「紙工作と焼きそばの会」である。「学

習相談」は、六回実施して、延べ四十名、「紙工作の会」には保護者を含め十二名が参加できた。

紙工作では、ケント紙を加工して、小動物のオコジョやハムスターを作ったり、紙飛行機を作ったりした。工作の後、大きな鉄板を囲んでみんなで焼きそばを食した。

夏休み中に実施するのは初めての企画であったが、子供たちの笑顔を見て、どの子にもすばらしい思い出がまた一つできたように感じる。今後も、どんな内容が大切なのか探りながら、積極的に体験活動を実施していきたい。

※婚姻色：動物の繁殖期に出現する目立つ体色



▲ 子供たちが制作した作品



- 表 彰
- ◆第二十五回県ジュニアオリンピック  
陸上競技大会 男子走り高跳び  
優勝 六ッ美北中 利國 翔  
記録 一M八〇
- ◆第七回全日本小学生新相撲大会  
●四年生の部  
優勝 六ッ美北部小 佐野真奈香  
第三位 根石小 加古 若菜
- ◆第四十回西三河総合バレー  
ボール選手権大会
- 小学校の部  
男子 優勝 矢作南小学校  
二位 竜美丘小学校  
三位 上地小クラブ
- 女子 二位 北野小学校  
三位 上地小クラブ  
六名小学校  
六南小クラブ
- 中学校の部  
男子 優勝 竜海中学校  
二位 矢作中学校  
三位 北中学校  
三位 新香山中学校  
六ッ美中学校
- 女子 三位 六ッ美中学校

◆第43回岡崎市小学校陸上競技大会

種目	氏名	校名	記録	
男子	5年100m	高木 亮佑	緑丘 14"6	
	6年100m	伊井 京平	緑丘 13"5	
	80mH	榊原 智陽	上地 12"8	
	1000m	浜口 修平	井田 3'09"9	
	400m R	天野・岩瀬 加藤・尾崎	羽根	55"8
		1位	2位	3位
		羽根	上地	広幡
	走り幅跳び	徳田 陽介	六名	4m41
	走り高跳び	杉浦 樹希	梅園	1m35
	ソフトボール投げ	松井 飛人	竜美丘	66m66
総合	優勝	2位	3位	
	緑丘	根石	六名	
女子	5年100m	本多明日佳	本宿 14"8	
	6年100m	坂田 佳奈	連尺 14"7	
	80mH	酒井 悠以	三島 13"5	
	1000m	鈴木 萌未	矢作東 3'22"0	
	400m R	柴田・齋藤 鈴木・柴田	男川	59"1
		1位	2位	3位
		男川	三島	本宿
	走り幅跳び	齋藤 あゆ	男川	4m18
	走り高跳び	磯貝華奈子	六名	1m35
	ソフトボール投げ	鈴木 理紗	美合	56m69
総合	優勝	2位	3位	
	大門	男川	三島	

◆第37回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位	3位
陸上競技	男	甲山	六ッ美	矢作北	—
	女	竜南	六ッ美	岩津	—
バスケットボール	男	美川	北	甲山	矢作北
	女	甲山	美川	竜南	竜海
バレーボール	男	竜海	矢作	南	矢作北
	女	新香山	六ッ美北	甲山	竜南
ソフトテニス	男	常磐	矢作北	六ッ美北	河合
	女	福岡	矢作北	新香山	甲山
卓球	男	六ッ美北	城北	六ッ美	常磐
	女	竜海	美川	北	常磐
体操	女	矢作北	東海	竜海	—
	女	東海	竜海	矢作北	—
剣道	男	常磐	南	甲山	竜海
	女	甲山	竜海	南	北
ハンドボール	男	葵	六ッ美	竜南	美川
	女	六ッ美北	竜南	—	—
軟式野球	男	南	矢作北	竜南	東海
	女	南	甲山	竜海	矢作
ソフトボール	男	甲山	矢作北	竜海	矢作
	女	甲山	矢作	矢作北	—
サッカー	男	甲山	六ッ美北	竜海	新香山
水泳	男	矢作北	東海	竜海	—
	女	竜海	矢作北	矢作	—

◆第37回岡崎市中学校新人総合体育大会 水泳競技の部

★印は大会新記録

男子	氏名	校名	記録	女子	氏名	校名	記録
50m自由形	田端倫太郎	矢北	28"1	50m自由形	森 菜見子	矢作	31"0
100m自由形	永田 泰寛	附属	58"0	100m自由形	久永 智美	甲山	1'04"6
200m自由形	本多 広昌	東海	2'09"7	200m自由形	平井 誌織	矢北	2'27"9
50m平泳ぎ	酒井 雄一	北	36"5	50m平泳ぎ	沢田 有希	矢北	39"2
100m平泳ぎ	原口 卓也	六美	1'17"4	100m平泳ぎ	淵野亜由美	北	1'21"2
50mバタフライ	加藤 隆一	葵	32"3	50mバタフライ	新井 紀子	矢作	★ 32"9
100mバタフライ	中根 浩貴	矢作	1'07"8	100mバタフライ	加藤さゆり	城北	★ 1'06"5
50m背泳ぎ	鶴田 怜也	竜海	35"1	50m背泳ぎ	高田 理江	竜海	★ 33"1
100m背泳ぎ	森光 吏	東海	1'11"7	100m背泳ぎ	新海 安那	南	1'17"3
200m個人メドレー	中沢 駿秀	矢北	2'25"2	200m個人メドレー	藤原 綾子	矢作	2'45"3
400m R	田端・内藤 堀川・中沢	矢北	4'12"8	400m R	高田・坂野 林・門	竜海	4'37"4
400mメドレーR	内藤・堀川 中沢・田端	矢北	4'42"9	400mメドレーR	高田・宮嶋 坂野・門	竜海	5'13"5
男子総合	優勝	2位	3位	女子総合	優勝	2位	3位
	矢作北	東海	竜海		竜海	矢作北	矢作

◆第37回岡崎市中学校新人総合体育大会 陸上競技の部

★印は大会新記録

種目	氏名	校名	記録	
男子	100m	鈴木 康仁	矢作 11"9	
	200m	中村 建仁	北 24"7	
	400m	竹崎 雄二	矢作北 57"1	
	800m	武田 渉	東海 2'13"5	
	1年1500m	水野 真治	東海 4'44"2	
	3000m	市川宗一朗	竜南 9'47"8	
	110mH	池田 悠祐	甲山 16"7	
	400m R	長尾・天野 小笠原・竹崎	矢作北	★ 49"1
		走り幅跳び	鈴木 雄貴	岩津 6m22
	走り高跳び	田中 佑岳	葵 1m55	
砲丸投げ	鈴木 孝延	甲山 10m21		
棒高跳び	天野 文弥	南 2m40		
女子	100m	新美 綾乃	東海 13"1	
	200m	広野 有衣	矢作北 28"2	
	800m	竹本百合恵	六ッ美 2'29"9	
	1500m	花岡 紗耶	矢作 4'58"3	
	100mH	久保木 結	南 16"5	
	400m R	中山・河澄 今井・稲垣	北	55"4
		走り幅跳び	稲垣かれん	竜南 4m78
	走り高跳び	中嶋 文望	岩津 1m45	
	砲丸投げ	高橋 裕美	六ッ美 10m74	

・カ  
ツ  
ト  
北  
中  
杉  
江  
ゆかり

# 全日本音楽教育研究会愛知大会 (昭和57年)

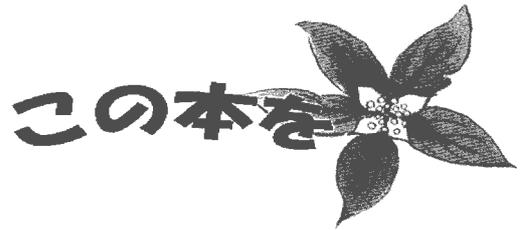
写真提供：城北中学校

## フォトヒストリー 岡崎の教育



「来てよかった。本当に来てよかった。」  
 全校が輪になって『大地讃頌』を歌い終えた。一瞬の静寂の後、聞こえてきた感動に満ちた参観者のつぶやきである。昭和五十七年十一月十九日、岡崎市内の三つの小学校と、二つの中学校を会場に、「全日本音楽教育研究会愛知大会」が開催され、その研究実践は岡崎市の音楽教育のレベルアップを一気に加速した。

そして、二十余年。一年後の平成十七年十月。再び岡崎の地で、「いま音楽に夢中 ひろがる学びのステージ」を研究主題に、本会が開催される。



### この本を

- \*ほっとする禅語70上・下 渡會 正純 各¥1050  
二玄社
- \*「ことば」ほどおいしいものはない 山根 基世 ¥1680  
講談社
- \*大人のための人生論 童門 冬二 ¥1400  
五月書房
- \*日本人のしきたり 飯倉 晴武 ¥700  
青春出版社

\*炎の陽明学—山田方谷伝— 矢吹 邦彦 ¥3465  
明德出版社

江戸末期、気の遠くなるような備中松山藩の借金財政を、8年間で蓄財10万両に再建した陽明学者山田方谷。彼が弟子の河井継之助に贈った言葉は「友に求めて足らざれば、天下に求む。天下に求めて足らざれば、古人に求めよ」であった。

大きな時代の変革の中で、明治政府の招聘を拒絶し、岡山県備中高梁市で郷里の子弟の教育に心血を注いだ。歴史の中に埋もれた方谷の厳しい生き様に、怠惰な心を洗われる。

大勢の人が被害を受けた普賢岳の噴火は、一九九四年十一月に起こっている。さかのぼると、一七〇七年の十一月には富士山の大噴火があったそうだ。

災害は、忘れたころにやってくる。東海大地震が懸念されている昨今、今一度、危機感を持ちたい。

しおりを作るために、落ち葉探しに出かけた。真っ赤なカエデやモミジ、鮮やかな黄色のイチヨウの葉。さくさくと落ち葉を踏みながら歩くのも楽しい。遠くの方々に目をやると、錦の織物を広げたように美しく染まり始めている。しみじみと深まる秋を味わう。

## シ オ ス ア

青空に山々の紅葉の色が映えるこの季節。子供たちは竹ぼうきを手に、喜々として校庭の落ち葉を掃き集める。掃いても掃いてもきりが無いと思われるほど、日々落ち葉が積もる。ほうきで掃き集めた落ち葉の山の高さを競うように、無心に掃いている姿が愛おしい。

スポットライトを浴び、表情豊かに歌う子供たち。指揮者を見つめ、楽器を奏でる子供たち。舞台上、袖でステージをそっと支える教師たち。そして、音楽に耳を傾ける観客。子供・教師・観客が一体となった「岡崎のハーモニー」は、伝統を受け継ぎながらも更なる発展を図る。